

# 持続循環型まちづくりを目指す

昨年12月13日に第5回目となる横浜若葉台マスタープラン策定委員会を開催しました。

今回はマスタープランの要となるまちづくりの目標、戦略、実現に向けた方針を精査しました。

## (1) まちづくりの目標

若葉台の開発理念である「都市と環境の共生」が今日まで継承され、住民が主体的にまちづくりに取り組んできました。このような地域資源を強みとして、今後も若葉台が「選ばれるまち」であり続けるために、まちづくりの目標を**“世代をつなぎ 未来をひらく 持続循環型まちづくり”**と位置付けました。若い世代へバトンをつなぎ、若葉台の魅力を次世代へ伝え続けて

いくことこそが、まちの未来をひらくことになり、その流れを持続循環させていきたいという思いを込めました。

## (2) 基本戦略

若葉台の現状と課題を「子育て」「高齢者」「住宅流通」「中心街」「世代承継」の5つの視点から整理してきましたが、課題に対する対策についてはもっと横断的・多角的な視点から未来志向を持った下図の6つを基本戦略としました。

## (3) 重点的な取組み

6つの基本戦略に基づいた重点的な取組みの案について、例示したものを裏面に記載しています。

### 《現状・課題》

子育て

高齢者

住宅流通

中心街

世代承継

横断的・  
多角的  
な視点

### 《基本戦略案》

①中心街の再定義

②「地域包括子育て」の実現

③「安全・安心・健康まちづくり」の推進

④住環境と公共空間のリノベーション

⑤若葉台ブランドの確立とシティプロモーション

⑥エリアマネジメントの発展継続と未来への承継

## (4) 実現に向けて

目標の実現に向けて以下のことを重要視しながらまちづくりを推進します。

○主な登場人物の役割

○地域ニーズへの機動的な対応

○定期的・継続的な進捗管理とマネジメント

○大規模遊休資産の早期事業化

○都市計画変更による用途等の見直し

これからのまちづくりに関係する全ての担い手の指針として、マスタープランは今後の社会変化にも対応できるように柔軟な運営と適切な進捗管理の継続が求められます。

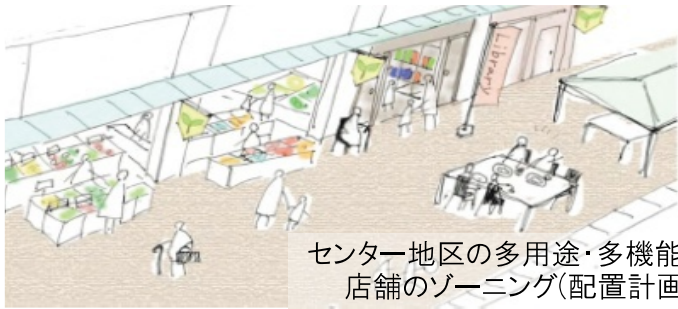
昨年の2月から始まった策定委員会も次回の第6回（2月22日開催予定）をもって最終回となる予定です。

現在、委員会では資料作成を進めており、2月に皆さまに対する案の閲覧と意見募集を予定しています。そのほか、前回行いました説明会とまちづくりワークショップが大変好評だったため、第2回の開催も視野に入れ、準備を進めています。

また、「マスタープランの名称について分かりにくい」というご意見を複数いただいたことを受け、より皆さまに親しみやすい呼称への変更も検討しています。

# 重点的な取組み案

## 1. 中心街の再定義



- ・訪れやすい環境づくり、居心地の良い環境づくり
- ・アクセシビリティ(交通利便性)の向上
- ・わかば会運営にかかる企画運営機能の強化
- ・長期修繕計画の点検と柔軟な運用
- ・大規模未利用地の利活用

## 2. 「地域包括子育て」の実現



- ・幼稚園・保育園と地域との連携
- ・居場所づくりとつながりづくり
- ・多様な預かりニーズへの対応
- ・医療機能の充実
- ・児童生徒の放課後対策
- ・選ばれる住まいづくり
- ・子育て環境を支える地域団体等の世代承継

## 3. 「安全・安心・健康まちづくり」の推進



- ・自転車・歩行者専用道路の適切な維持管理
- ・健康維持と介護予防
- ・公助(フォーマルサービス)と共助・互助(インフォーマルサービス)の連携
- ・医療機能の充実
- ・ハード・ソフト両面から「暮らしやすさ」へのアプローチ
- ・センター地区への高齢者支援機能の配置
- ・回復療養機能の充実
- ・生活支援サービスの充実
- ・安心できる住環境の提供・支援
- ・地域コミュニティの一員としての役割と生きがい
- ・まちぐるみの安全・安心

## 4. 住環境と公共空間のリノベーション(改修)



- ・若年層を中心とした流入促進策
- ・住環境の適切な維持管理
- ・転出入バンク機能の実装に向けて
- ・公社賃貸住宅の利活用
- ・西中学校跡地の本格利用
- ・まちづくりセンターの役割と体制の整備

## 5. 若葉台ブランドの確立とシティプロモーション(まちの魅力発信)



- ・情報発信とメディア戦略
- ・シティプロモーション(まちの魅力発信)の実践に向けて
- ・横浜環状鉄道の誘致に向けた運動の継続

## 6. エリアマネジメント(地域一体型まちづくり)の発展継続と未来への承継



- ・「オール若葉台」とエリアマネジメント(地域一体型まちづくり)の承継
- ・記録と記憶の継承
- ・団地再生に向けた取組みの継続
- ・若年層がまちに定着しやすい仕掛けづくり
- ・土地利用のエリアマネジメント(地域一体型まちづくり)

◇ご意見等ございましたら、若葉台まちづくりセンターホームページのお問い合わせページもしくは委員会事務局公社担当(団地再生事業部事業企画課045-651-1957)まで。(策定委員会事務局)  
若葉台まちづくりセンター: <http://www.wakabadai-kc.or.jp/> 神奈川県住宅供給公社: <http://www.kanagawa-jk.or.jp/>